

心の栄養剤No167 「親切の輪」

<親切の輪①>

学生時代、貧乏旅行をした。帰途、寝台列車の切符を買ったら、残金が80円!

もう丸一日以上何も食べていない。家に着くのは約36時間後…。

空腹をどうやり過ごすか考えつつ、駅のホームでしょんぼりしていた。

すると、見知らぬお婆さんが心配そうな表情で声を掛けてくれた。わけを話すと、持っていた茹で卵を2個分けてくれた。さらに、私のポケットに千円札をねじ込もうとする。

さすがにそれは遠慮しようと思ったが、お婆さん曰く、

「あなたが大人になって、同じ境遇の若者を見たら手を差し伸べてあげなさい。社会ってそういうものよ」

私は感極まって泣いてしまった。

お婆さんと別れて列車に乗り込むと、同じボックスにはお爺さんが。最近産まれた初孫のことを詠った。自作の和歌集を携えて遊びに行くという。ホチキスで留めただけの冊子だったので、あり合わせの糸を擦って紐を作り、和綴りにしてあげた。ただそれだけなんだが、お爺さんは座席の上に正座してぴったりと手をつき、まだ21歳(当時)の私に深々と頭を下げた。

「あなたの心づくしは生涯忘れない。孫も果報者だ。物でお礼に代えられるとは思わないが、気は心だ。せめて弁当くらいは出させて欲しい。どうか無礼と思わんで下さい」

恐縮したが、こちらの心まで温かくなった。

結局、車中で2度も最上級の弁当をご馳走になり、駅でお婆さんに貰ったお金は遣わずじまいだった。

何か有意義なことに遣おうと思いつつ、その千円札は14年後の今もまだ手元にある。

腹立たしい老人を見ることも少くないけれど、こういう人たちと触れ合うことができた私は物凄く幸運だ。

人間が感じる幸せは3段階あるといいます。

1段階目は「人から何かをしてもらう」幸せ、2段階目が「できる」幸せ。

そして最高の幸せは「誰かに何かをしてあげた」、つまり「自分が誰かの役に立てた」「自分が誰かに喜んでもらえた」という幸せなのだそうです。

世界的な遺伝子研究の権威である村上和雄先生は、「遺伝子の研究からも、人間が最高の幸せを感じるのは、『自分が誰かの喜びの源になったとき』だと分かった」と話されていました。

<親切の輪②>

終電車の発車間際に切符なしで飛び乗り、車掌さんが回ってきた時に、切符を買おうと財布を出そうとしたが、財布がなかった。小銭入れもない。どこかで落としたのだろうか。途方にくれたけれども、そのことを正直に車掌さんに言いました。

「すみません。明日、必ず営業所まで行きますから、今日は乗せてください」

ところが、この車掌さん、よほど虫の居所が悪かったのかどうか、許してくれない。次の駅で降りろ、と言うのです。

次の駅で降りても家に帰る手段はない。ホームで寝るにとしては、北海道の夜は寒すぎる。どうしようもなくて困っていたら、横に座っていた同じ年格好の中年の男性が回数券をくれたんです。

お礼をしたいからと言って、その男性に名前や住所をたずねたけど、ニコニコ手を振って教えてくれない。最後は借りたことを忘れて、なぜ教えてくれないのかと文句を言ったら、次のような話をしてくれたんです。

「実は私もあなたと同じ目にあって、そばにいた女子高校生にお金を出してもらったんです。その子の名前を何とか聞きだそうとしたけど教えてくれない。

『おじさん、それは私のお小遣いだから返してくれなくて結構です。

それより、今おじさんがお礼だといって私に返したら、私とおじさんだけの親切のやり取りになってしまいます。もし、私に返す気持があったら、同じように困った人を見かけたらその人を助けてあげてください。そしたら、私の一つの親切がずっと輪になって北海道中に広がります。そうするのが、私は一番うれしいんです。

『そうするようになって私、父や母にいつも言われてるんです』と私に話してくれました。」

私自身も `歳、を重ねて、やっと自分が最高に幸せを実感できる場面は相手や回りに、自分と同じように喜びを感じている人が存在する時だと分かってきました。

分かった上は、これから先その事をしっかり意識した生活～行動に心掛けて過ごさなくては！！

